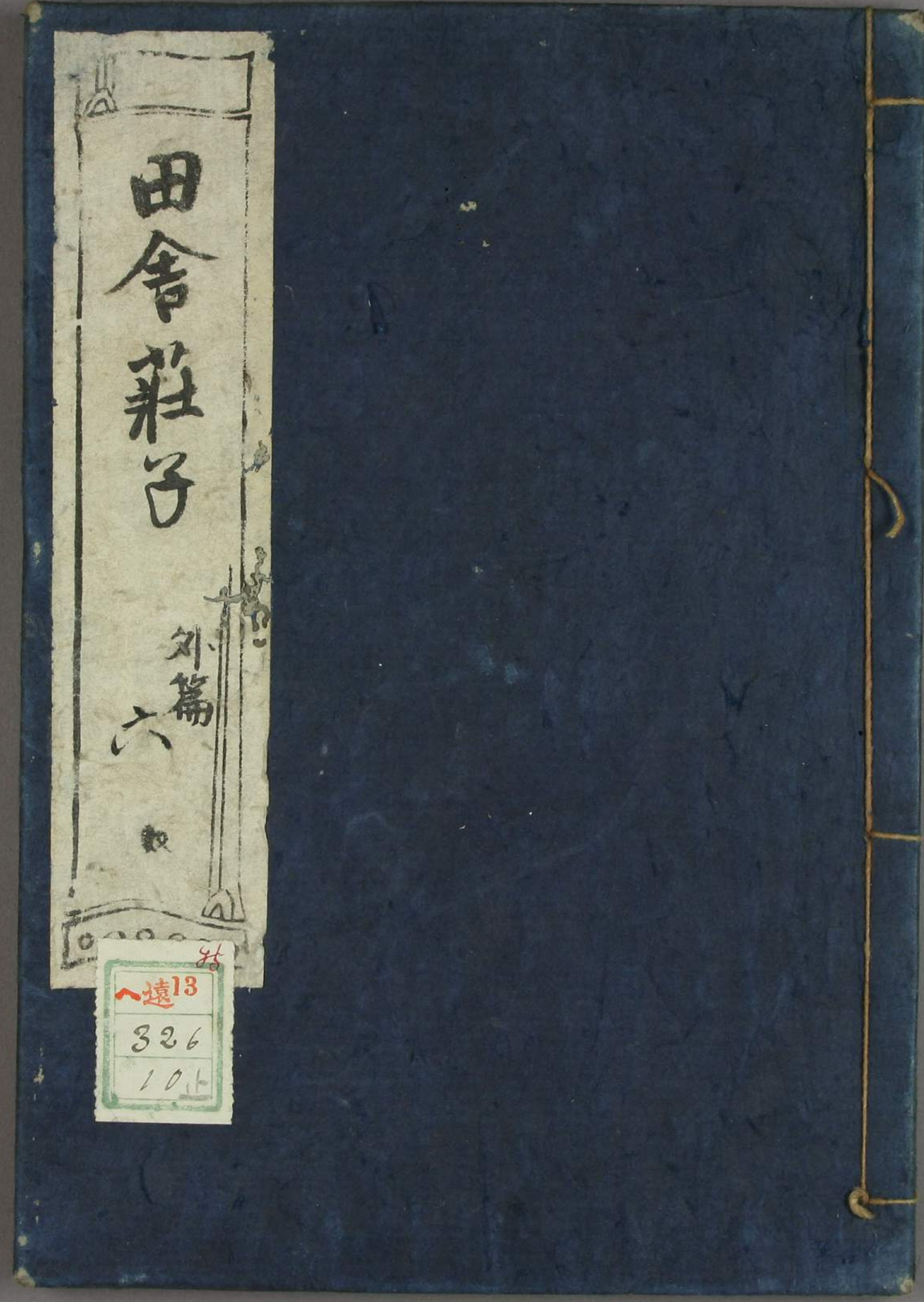
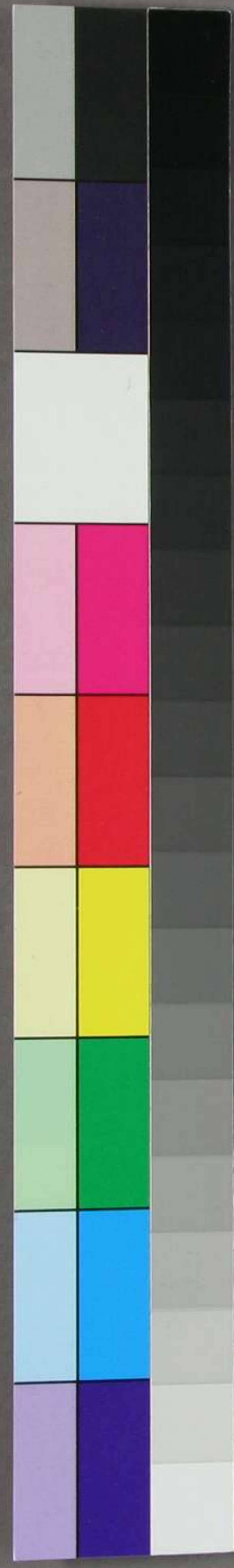




田舎莊子

外篇
六

85
へ遠13
326
10.1



如來真實法門

一審 必其の直乃に就てとうあつた此を

かゝるよ遊のりよ由事の少説法と承の閑情

せむや
くひに望ん
ハ育ち来りて
所もみよ

合掌して心紙をけりて
居るを更に入来せり
此

又例の同魔王出母り番紙焼て礼来
清厨子

乃戸となく内らるゝ如來大光明を放く如
なるひの夜洩れ流りし世間有る此法之我
正法眼花なり唯迦葉の我か枯花以下小
開悟して微笑ししをこゝてわいとしより
洩るり今洩る言紙以て傳ふべし家系年
比にる元生乃地獄より立てるしと見て
堪ふくとい十九の歳より王位紙授きよとな
きてふより入十二年が宮工吏として終り我より

佛法の化形をれて元生の苦しみと大く教ひ
ふれど之威はる東流して晨且まよふる
彼まのてまゝ儒者も文字も寫して教ふ
増補しわぬまよふとたつめてそふ余もに去
むろき我法のまゝ紙表ひ終り儒りの入内と
成るりまよふら達し一人は弊とまよひひか
るそは法の破滅と晨且まよふる教外
別傳不立文字の宗旨と立直指人心見性成

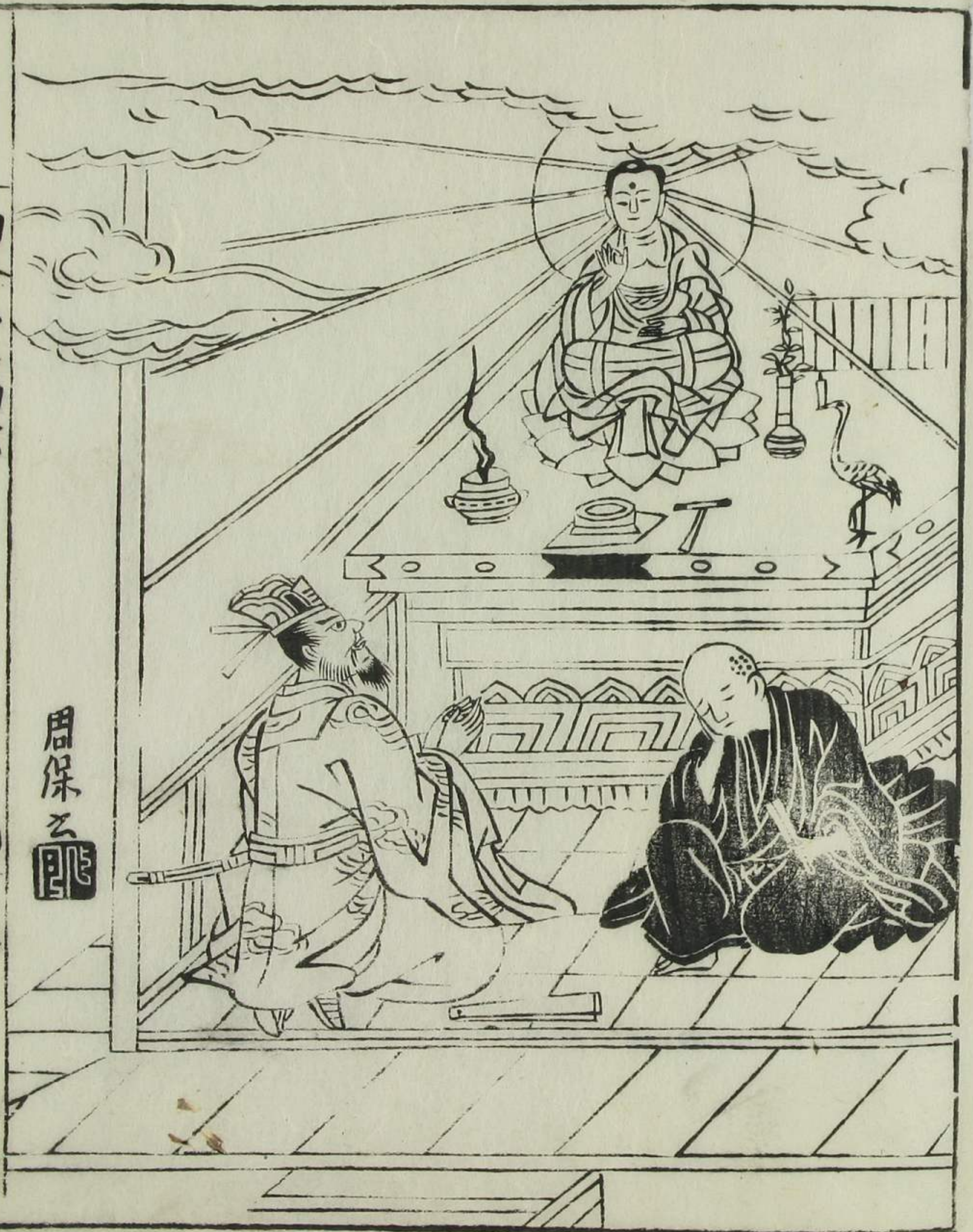
佛の法と云ふも佛の所は美女の敵と
云ひ先きに我の所は美女の敵と云
ふの畏且まへより居りしより其の
下れをまよはせし紙幣にてはなす
毒殺も然れども育子人此世中なれ
ば彼を
とを仏才子ありとて笑ひ若くは
まゝとて然るも畏且まへより
佛の佛法をよりとて今ハ禪の
多く扱

天台がこれより一より月廿へうと
目廿と又うくの偽と偽補と今ハ
此正味ハあり方便の糟粕と種々の
めり対釈のものと云ふは決ぐめ
しより今一我もてわつふされも
まへさやうも明辛竟荒生と不便
と思ひ
もさう方便と説くあやうらうと
迂謬と
はハ佛法ハ一流といひ釈の
意とハ此

我とうそはとの同^とな^やより人とのま^まら^ら
 法^と世^ととするの^ところ方^か便^{べん}は惡^い魔^まの教^{けう}とて
 惡^い魔^まのま^まうひと解^い脱^{だつ}とて脱^{だつ}を^おと^しん
 の佛^{ぶつ}に今^{いま}此^こ坊^{ぼく}に^いて^て佛^{ぶつ}と^めり^り分^わか
 りの^の丈^{せん}法^{ぽう}は^い法^{ぽう}也^{なり}故^ゆに華^け嚴^{えん}の社^{しゃ}に三^{さん}界^{かい}
 惟^{ただ}一^{いつ}心^{しん}に^いて^て無^む別^{べつ}法^{ぽう}心^{しん}佛^{ぶつ}及^{およ}至^し是^こ三^{さん}無^む差^さ別^{べつ}
 と^いは^はる^る悟^ごか^か者^{しや}と^つら^ら迷^まふ^ふ者^{しや}も^も心^{しん}なり
 世^よに^いて^てあ^ある^るふ^ふ何^{なん}も^も悟^ごり^り時^{とき}に^いて^て佛^{ぶつ}と^めり^り分^わか^かふ

時^{とき}に^いて^て佛^{ぶつ}と^めり^り分^わか^かふ^ふ地^ち獄^{ごく}天^{てん}堂^{だう}一^{いつ}切^{けつ}の^の境^{けい}界^{かい}を^いて^て愛^{あい}
 化^{くわ}は^はる^るど^どの^の如^{ごと}く^く真^{しん}も^もな^なく^く妄^{わう}も^もな^なく^く 形^{かたち}も^も
 な^なく^く正^{せい}と^と邪^{じや}の^の悟^ごり^り時^{とき}に^いて^て天^{てん}地^ちと^と九^く番^{ばん}あ^あて^てと
 世^よに^いて^てえ^えん^んじ^じう^うか^かま^ます^すな^なく^く迷^まふ^ふ時^{とき}に^いて^て世^よ界^{かい}
 氣^きの^のく^くは^は見^みる^るり^りの^のま^まに^に熱^{ねつ}と^とり^り
 火^{くわ}と^とい^いふ^ふと^と解^い脱^{だつ}何^{なん}も^も悟^ごり^りと^とい^いふ^ふ悟^ごり^りと^とい^いふ^ふ
 愛^{あい}れ^れ悟^ごり^りと^とい^いふ^ふ凡^{ぼん}夫^ふは^は妄^{わう}想^{しやう}れ^れ愛^{あい}の^の中^{ちゆう}に^に下^か劣^{りやく}
 と^とい^いふ^ふ彼^かを^を是^ぜと^とい^いふ^ふ世^よに^いて^て非^ひと^とい^いふ^ふ貪^{こん}欲^{よく}嗔^{しん}恚^い怨^{えん}

痴とひて、^ち此^こ地^ちと^と他^たり^りづ^づが^が母^{はは}
 漬^ひき^きし^し、^だ母^{はは}を^を初^{はつ}め^めに^に同^{どう}く^くと^とま^まぬ^ぬる^る
 け^けの^のこ^こい^いあ^あお^おる^る夢^{ゆめ}悟^ごら^ら時^{とき}ハ^ハ自^じ性^{じやう}ハ^ハ現^{げん}
 希^{まれ}し^して^て衆^{しゆ}生^{じやう}万^{まん}象^{ざう}造^{ぞう}と^とま^ます^すく^くの^のれ^れを^を
 か^かし^しと^とか^かて^て心^{こころ}作^{つく}れ^れる^る六^{ろく}合^{がふ}の^のか^かと^と無^む
 寂^{じやく}滅^{めつ}無^む生^{じやう}の^のか^かれ^れハ^ハ後^ごて^て足^{あし}も^もろ^ろ、^い非^ひを^を
 ち^ち真^{まこと}も^もか^か、^ま妻^{さい}も^もろ^ろ、^あ地^ちも^もろ^ろ、^{てん}天^{てん}堂^{だう}ニ^ニ
 ハ^ハ足^{あし}て^て満^{まん}か^か、^い馬^ばも^もか^か、^いく^くと^と負^おへ^へ



周保之印

牛と豚とハ車と扱ぐハ大に成るハ
門とちり金一鶏とハハ河と昔金一
此ハ自得自ちアテ天地万物我と動つと者
カ故ハ音法ハ礼樂と設と武備と云ハ
大帝三王の政と見るハ嬰児の戯遊と見
るハ言説と云て是と云ハあらず
梵天帝釈須弥此ハ凡俗我ハ厭下と出と
然レハ仏と聖人と大遠ハわつとの一と云

す適もず莫も可く可と云ハ不可もなと
不ハ礼と我も同一事ハ彼ハ義之比興也
以我ハ平等利益と云ハ吾人の富貴貧賤
夷狄患難ハ自得せむといふ事ハ
その我ハ所謂地獄天堂一ハ見て隔る者
なり彼ハ造化と云て大衆所ハ我ハ造化と
幻妄と見る吾人ハ仁義と云て天則ハ我
ハ寂滅と云て心付とす彼と我と異なりお

明くはけり彼が善やん我が善やん家と
 あり次ありぬが帝に之を聖人も我に我も
 我より孔子と我に必と隔て世に隔り彼
 は彼より孔子に依て教と立我に家園の念
 無くて教と立我周云孔子とやとて終に
 法よかわるべきか周云孔子我に法と事と
 とを治國平天下の政よ事此れ其の事
 か道窮る事かと急く事とておとく

通用もさぬ物に合さるるに合さるるに
 通るるに通ひるるに道意に徳は
 は世儒の学老我に我の心付と一海に
 してはよ我我と立量もさるる事と初め
 る糟粕とて相罵るに者ハ吾人と家
 此にわかれ女媧氏ハ日光堂に伏羲
 ハ親帝の化に摩訶迦葉ハ老子と成老
 童子ハ孔子と生れ月の儒童ハ釈迦と

變じて晨旦あしたに仏法と後ごさんとあれけり
まゐりに我われ先まづいふ聖せいとつゞて仁義にぎぎの
と教しやうへては、佛ぶつ法ぽうと倫布りんぷせり。んと我われひ
ころやうは清淨きやうじやう法ぽう經きやうは書かきのそりいふ
我われ佛ぶつありとてと他のふれ人の名なをふ百年ひゃくねん以もつ
來きたり。知りてとやうか。女鳩めう氏し伏羲ふぎハ我われが未いま
生なまふ人のこと。是こゝふれ事ことはふたう書かきてと佛ぶつと
とて事こととてとと我われ眼がん前ぜんに生なまえり。若わ年ねん

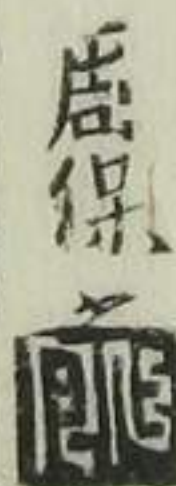
よりとのふひまゐりて我われ一ひとせ方かた若わくしてやうく
仏ぶつ化けは腋わきしり何いふの暇ひまなり。ふ百年ひゃくねんは
他のふれ事こととてと今いまより世よ治ちはとて今いまや
さきよりより中ちゆうは加かりる。ハ我われハ仏ぶつとせられ
ぬ。仏ぶつにようてとまゐりて先まづ我われをとてまゐりてす
は化け後ごとてとてと外まへ列れつ子しが寓う言ごんは孔子こうし
高たかの太宰たいざいは書かきて西さい方ほうは智ち共きのり法ぽうとて
て礼れいとて言ごんとて信しんありと道みちの窮きゆうなりと

事と修しゆんんとああにに修しゆるるは世よの坊ふとと
 孔子こうしへへ哲てい人じんとて天てん主しやうとと釈しやく迦かわわるる事ことととなりて
 著しやくし書しよももいついつつつて我われはは入いびびととす
 林希りんき也や口くち義ぎとと列れつ子しむむととううはは仁に也や也や
 知ちて孔子こうしはは笑わらとと偃えんてて著しやくふふかかと推おし考かうをを改かへとと
 といいふふとと東とうはは孔子こうしはは言ことてて女なんはは小せう儒にう
 者と我われはは入いびびととももうう所しよはは儒にう者しやととと
 出家しゅけと監かん賊さくの中ちゆうととううももるるはは我われはは孔

子しととああらられれととももほほむむととりり行こうくくとともも
 為く家け家け味みの仁に者しやととももののれれがが私し又また成なりひひとと
 此このの又また成なりひひ我われはは改かへふふととももううててなりなりとと
 んんききうう迂い詐さととははとと我われはは人ひとととううととううとと
 ももうう八はち目もく負ひののととううととははよよおおわわててハハ大だい罪ざい
 人ひとより達たつ大だい版ばんととままてて人ひととと惑まどふふはは忠ちゆう也や
 たたととハハかかいいつつととおお教きやうててとと罪ざいととううとと
 とといいふふハハ惑まどふふ目めががそそハハ傳でん教きやうにに注ちゆうととうう者しや

神道と云ふは、何もの神への御礼を
なすに神の御礼を世に奉るに我もいと
遷詐と云ふ。而も神の御礼と云ふて神
は非ずと云ふ我の法と人とは何れと云
ふ事も我の心もぬ事。目に見えぬ
立派の御礼。一御礼。や。ハ我の御礼
かんと云ふ。何れと云ふ。ハ我の御礼
物と云ふ。何れと云ふ。ハ我の御礼

て我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ
我の御礼。平竟に何れと云ふ。ハ



田部

録の祥とハ異言此言ことと假しと
称せし善かれところす外 新へ儒学
ともの者の内もてもかーめとえつ法と法
者とハ聖人此道と学ひさう 禄学小混雜
するさといふてのくちり 諸子孟子ハ此と
男かれとハ大賢人其言ハ曰凡そ書と凡そ
よハ群とひて意と害するところく意とひて
志と至へて見よと述へ 教められたるやうに

言とハなりひ出とせし仏法成るるを凡
儒者の没目のやうよおひえて 防まふやと
下ハ堂塔伽藍とハ茶室同物よ凡そハ佛像
とハなり人形れとくちりひるは是又末世
乃 偏執聖賢の言も差なりすに 双方も小
直しかなぬまふれとハ人々と 佛老ハ法と
いふんとて 迂曲さうとせしめけり 實ハ後世の
ためよすう老おひ 儒者よハ善博なるやうに

今も重くかゝるに於て遷徙は行く者おふ
くれば書六經は遷徙を以て堯舜孔子
とめりといふも重人と貴人と惑もり
仕立てとすめこびる重人の法文の正しく
我々方便の弊あり然れは方便は我々惑も
あすむとめぬまありては晨旦とては
土人の重人にして伏羲の四文字もあ
く奇偶の道とて明旧は象りて此れ

と家一トト十までの教とて明旧は
り地の教ありては及んとて民と並ひ耕
していも君臣の父あり美帝は徳と官
殿と作り衣裘以て実の武備と設て悪人を
罰し悪人はさくは下と卑く小人は
所は耕し君子は政とてゆけ下のか定
まら堯舜文武周の時に礼樂刑政とて
か天下と治め民を化して聖人につく民

「教」の字、^{イロ}「中」に「人」を「世」に「く」る「欲」
くも「おや」めり「中」に「人」を「世」に「く」る「欲」
後「孔子」出で「方」に「周」流し「人」を「教」ふ「も」魯
の「大司寇」に「官」す「て」は「人」を「教」ふ「と」
歴「これ」は「卑賤」の「者」む「さ」に「近」む「と」いふ「も」
從「て」教「ふ」を「事」と「か」し「東」脩「ふ」の「礼」と「行」の
「よ」う「な」れ「ば」對「面」し「て」は「孔子」を「逢」て「道」を「す」
が「の」者「は」皆「も」さ「う」く「下」に「地」も「わ」り「る」は「も」通「じ」

「孔子」の「教」に「教」ふ「言」を「く」り「て」名「稱」す「ひ」い「う」
「之」を「言」ふ「も」亦「も」さ「う」な「わ」り「め」く「こ」の「人」計
「れ」す「に」天「竺」の「人」も「に」周「闢」し「る」は「亦」然「る」者「も」
「さ」う「な」人「も」出「生」せ「ば」亦「も」人「情」欲「を」
「名」稱「す」る「に」執「着」甚「し」く「さ」う「な」る「も」排「徊」
し「て」あ「る」は「亦」然「る」を「教」ふ「た」も「ひ」周「公」孔「子」
「同」道「し」て「来」り「し」る「も」い「ひ」人「情」は「ハ」も「て」あ「る」
「一」唐「虞」二「代」の「教」ふ「も」亦「も」年「も」亦「も」入「る」

事有べしけいふそへ人よ尾も出来南も
 ぞと人そと我幼かりき昔よりて連う人
 かろひ十九年よ王ふとけ出い松よて
 十二年が間飯ふとけう王とより我二十成
 ぞとより一故かりての方便に実なせれうう
 れは我所ふよせれううは仏法を起えんとそ
 べもふく竟舞文武のく懐ひそて氏と活
 む一業世の因果くやうらん悉る而へ生ま出



周保

控てもうれにふいふ及つとも是れすく出
 ぬて人のいやかつる食民院の物として見せ
 三十九時成道しうといひやうそれういふ
 出でふたれ金でそなく形取るう獵師様多れ
 うひましくぬわめいやといふ者とも無理にお
 しうぬやいをはり金より沐るれ術を以
 て目前はたして見せ忍痛ううなれよは
 忍痛うの事といふか一人無機流法に

けふもてとて大肯とわう半公平の
 かなさ指とよりして大勢中へうと入あうと
 さういふあうさうさうさうさうと悦び紙
 内と阿那が書と見て至るうなる痛恨
 と遠いて我れふといろくむいしき
 四首忍痛なる方便ありそれと今うと
 よてうあハ我う不幸あり 周王長て
 なる所自ぬさうに仏法と赤裸ふなれ

て八幡様も落くあり儒者大八鼻と云ふ
出家八幡と云ふくんがーいをももろく
中にもある 釈る笑て曰西国々よ計治
て文盲ありあり仏のつとをさすはハ私に
我人よ林檎ぐれきたあよ仏法と釈る
よあつてそれちよふあまよきてハ無様況
法ふれハ事よーり林檎ありとて人ハ信
と釈さけりちもろくー三十二相の婆と云

らうて見せさうとせ又何の方便ハ一際よハ
いひさー滅はよ地の心ハおあり世なる文明
ありあよて文盲ありちとて人ハ信ど
ふとて滅者の心いと振くべー我法はめ
るんると釈るのこたひハ一相なりた
正法と信じて我我我の心作と云ふハ我
信びこるい天地の介とていふなりとも
迂詐の夢ろくさハ我ハ大加憂ハ仏法破

滅^{ちり}は、はるるか、芳^{よし}きなり法^{ちり}花^けよ、正直^{しちせき}於^お方便^{はんべん}
 とくを候^{まち}る遷^{うつ}作^{さく}をばあ、況^{いは}んよと又^{また}
 ばせうて、はう法^{ちり}入^いてと死^しして候^{まち}は、はよなん
 とあ、若^{わか}のたれよ、安^{やす}婆^ば市^し寂^{じやく}光^{くわう}と況^{いは}る
 達^{たつ}たぐ、え、とく、今^{いま}まを、か佛^{ぶつ}をひて死^し
 して候^{まち}は、かといふ、は、い、處^{ところ}何^{なん}、とてあ
 然^{しか}して来^き世^よへ、は、い、も、我^{われ}經^{きやう}文^{ぶん}の由^{よし}とてあ
 へ、が、候^{まち}は、は、ち、り、とていひて候^{まち}よ、にあ

し、と、事^{こと}ハ、妙^{めう}しくて、人^{ひと}も、い、え、ぬ、と、丹^に龍^{りゆう}が、来^き
 像^{ざう}と、お、り、て、大^{だい}に、候^{まち}を、い、ひ、て、我^{われ}と、一^{いつ}持^ぢよ、お
 へ、と、物^{もの}よ、含^{くわん}せん、といひ、一^{いつ}休^{きゆう}の、身^みよ、候^{まち}也^や
 と、い、う、う、う、ま、の、が、世^よよ、か、て、お、り、て、人^{ひと}と、迷^{まよ}ひ
 と、う、わ、といひ、ハ、ま、れ、の、万^{まん}念^{ねん}か、る、う、や、う
 ま、れ、た、ま、よ、我^{われ}と、ま、う、て、世^よら、よ、と、あ、ま、あ、ん
 の、候^{まち}を、た、と、教^{きやう}ふ、ハ、海^{かい}の、候^{まち}を、あ、う、れ
 ざ、う、か、て、我^{われ}ハ、彼^か候^{まち}を、と、お、教^{きやう}は、ま、と、候^{まち}ふ、と

莊子^{しやうし}が堯舜^{ぎやうしん}孔子^{こうし}と譽^うめ^めの^のち^ちの^の弄^{ろう}も^もを
 と^とい^いや^やに^に在^ある^る量^{りやう}を^を人^{ひと}と^と知^しる^るん^んや^や世^よの^の
 孔^{こう}子^しと^と違^{ちが}ひ^ひて^て世^よの^の孔^{こう}子^しと^とい^いふ^ふは^は
 ち^ちり^りに^に我^{われ}と^と非^ひと^と又^{また}知^しる^るに^に義^ぎの^の糟^{そう}粕^{ぱく}と^と
 知^して^て信^{しん}ず^ずる^る者^{もの}と^と憤^{ふん}て^て仁^に義^ぎた^たま^まや^や知^しる^る是^{こゝ}
 末^まも^も知^して^て實^{じつ}と^と以^{もつ}て^て孔^{こう}子^し以^{もつ}て^て稱^{しょう}し^し又^{また}仁^に義^ぎ忠^{ちゆう}
 信^{しん}の^の實^{じつ}と^と信^{しん}ず^ずる^るは^はあ^あり^りは^は世^よの^の信^{しん}者^{もの}の^の及^{およ}ぶ^ぶ不^ふ
 可^いわ^わく^く知^しれ^れる^る今^{いま}孔^{こう}子^しの^の及^{およ}ぶ^ぶの^の莊^{しやう}子^しと^と

大^{だい}言^{げん}氣^きの^の方^{かた}人^{ひと}に^に我^{われ}は^は若^{じやく}ハ^ハ福^{ふく}と^と言^いひ^ひく
 達^{たつ}た^たと^と我^{われ}任^{にん}れ^れな^なる^るは^はま^また^た大^{だい}小^{せう}迷^{まい}也^{なり}
 世^よの^の一^{いつ}切^{けつ}の^の事^{こと}皆^{みな}く^くれ^れて^て我^{われ}と^とい^いふ^ふは^は迷^{まい}作^{さく}
 つ^つま^まに^に親^{おや}方^{かた}よ^よも^もう^うに^に後^ご世^よな^なれ^れば^ばか^かく^くす
 由^{よし}來^{きた}ハ^ハ至^し利^りの^の学^{がく}授^{おづ}南^{なん}綽^{ちゃく}者^{もの}より^{より}支配^{しはい}せ^せる^るに^に
 神^{かん}信^{しん}け^けと^と衣^いと^と衣^いと^と一^{いつ}蓋^{がい}蓋^{がい}道^{だう}と^とい^いふ^ふは^は
 至^し腐^ふん^んめ^めや^やと^とい^いふ^ふは^は知^しる^るに^に以^{もつ}て^て信^{しん}ず^ずる^る
 易^いと^と扱^あて^て年^{ねん}並^{へい}と^とい^いふ^ふは^は山^{さん}品^{ひん}よ^よし^して^て信^{しん}者^{もの}の^の

石作ともう事ハ兩部の儒なるいふをさう
 孔子も我とあつぬ事孔子定てあつ
 ぞ一不教合する言来うそ著業と探
 のさうすおひしうぬ我も教を紙を
 後中あつてもうくくはもと又世事こ
 仏は此廣太一言のけすあふけをも願ひ
 此功德平等存一切同教善提心提生再業
 用いのかひて内よのそたまひる被信

ねりやう宵より此法説法佛よ似合ふぬ
 就漢るまじと也和云ぬくも法乃道今反
 其提の原よとせられや身此居止此強し
 見えされは是も悟りの程なりとあふ
 てせゆりあふ

田舎文書外卷之六終

田舎莊子跋

儒也神也老也佛也其道若一
手執一竿一勸善懲惡而已矣
凡情人家此和以己之辟
也其法不隨心之波之起而
非之也といふ老莊の意を大に教戒
と今一守令此書也儒がことと神

辟^ハ其^ノ老^ニふ^ハつ^テす^ハ佛^ノと^モ魔^ノと^モ変^ハ一^ニ
過^ハひ^ハ也^ニや^ハし^ハ事物^ノノ^ハ類^ノ備^セし^ハ一^ニ世^ニと^モ
推^ス入^ル。初^ニと^モ偶^ニと^モ似^ト入^ル。事^ノ理^ノと^モ来^ル也^ニ
聖賢^ノノ^ハ仁義神道^ノノ^ハ誠^ニ信^ニ老佛^ノ比^シ
有^ル為^ニ寂滅^ノ人事^ノ比^シ教^ノ戒^ノ。多^クく^ハし^ハ事^ノ乃^ハ
一^ニ理^ニふ^ハ出^ルと^モ大^ニ味^ニと^モ在^ル其^ノ道^ノ奥^ニと^モう^リ
奔^ル遠^ニい^ハす^ハと^モさ^ハ海^ノ西^ノに^ハた^リと^モう^リの^ハり

二三^ノ策^ノと^モ一^ニ十^ニ萬^ノ室^ノ其^ノの^ハ理^ノ理^ノ目^ノを^ハく^ハ
見^ツつ^テ中^ニ一^ニ嗚^キ呼^ブ也^ノ事^ノを^ハう^リの^ハ人^ノと^モい^ハふ^ハ
在^ル老^ノノ^ハ教^ノ一^ニ魂^ノと^モも^ハつ^テふ^ハと^モ遊^ビ一^ニひ^ハつ^テ也^ノを^ハ
事^ノノ^ハ繁^ニ華^ノ比^シ也^ノと^モう^リの^ハ人^ノと^モい^ハふ^ハ也^ノ都^ニ比^シ
田^ノ今^ノ人^ノと^モい^ハふ^ハ心^ノを^ハ方^ノと^モい^ハふ^ハ一^ニて^ハ老^ノと^モ
り^ハく^ハふ^ハと^モう^リの^ハ貴^ノ族^ノと^モい^ハふ^ハ一^ニて^ハ五^ノ姓^ノ通^ニ達^ノ
一^ニと^モい^ハふ^ハ大^ニふ^ハ言^ノ行^ノ入^ルと^モう^リの^ハ神^ノの^ハ人^ノと^モ

之爾

武陽散人

白龍子識

寬裕福
宇昭
昌不度



田舎莊子は
南無此片は
飛鳥の
花の
まゝ
田舎莊子
肉外二篇

うり血手母取うる
いゝく玉ね老うるも美
ふと星を見たり人順
或は綴りかくえく産
確大笑まふ在り無
九萬里の上ありと云

うんいゝなるふかき記
或是より或知りて老
尔樂く親の鶴鳴の地
焼くものと看に造り親
父の手作れ酒の味外
是と世何有は郷り

原、原すは廣莫乃
理、以猫とふ雅を毛
亦、のう、
や

時生水

越外子

都會節用集 全一冊

此書ハ天地人の間此文字
用のふ家にて必要入
は、上段、小真富と金引、
格、勢と、下段、
字、件と、引、
付、
此書ハ、唐明ノ詩家、
部、類、ラ、分、テ、
詠、ノ、便、ニ、
ノ、至、宝、此、編、ニ、ス、ギ、タ、ル、モ、ナ、シ、

字貫節用集 全一冊

唐明詩學聯錦大全

薄用、
中、本、一、冊、
部、類、ラ、分、テ、
詠、ノ、便、ニ、
ノ、至、宝、此、編、ニ、ス、ギ、タ、ル、モ、ナ、シ、

浪華書林

北久太郎町心斎橋通北二入

河内屋喜兵衛梓

心斎橋

